

背景と論点

大学の社会貢献活動の一形態である公開講演会は、大学にある豊かな知を広く学外の方に届けることのできる機会です。ただし、市民が公開講演会に足を運ぶ動機は多様です。知的欲求を満たしたい、学術に関わる懸念を表明したい、大学教員と交流したい、アカデミックな雰囲気を感じたい、といった様々なニーズをもつ聴衆がいるのです。そして、講演会でのあなたの言動は、大学教員に対する見方やイメージに大きな影響を与えることもあります。

とはいえ、気構える必要はありません。聴衆は大学教員と直接に対話できる機会を楽しみにしてくれています。あなたにとっても、学術にどのような思いが抱かれているかを知る、またとない機会です。「正しい知識」を教えることにこだわらず、会話を楽しむなかで学術を大切にする文化を育むことを重視して、講演に臨んでみてはいかがでしょうか。

実践の手法

1. 前提の確認

- ・ 学部低年次生を対象にした一般教養系の授業をイメージする
- ・ 研究のプロセスや環境、なぜ今の研究関心があるのかなど、内容を豊かにする
- ・ 聴衆の目的が学術知識の獲得だけではないことを念頭におく
- ・ 自分を壇上のパフォーマーと位置づけてみる
- ・ 集中して聴いてもらえるのは20分までと心得る

2. 講演の準備

- ・ 「物語」を意識する
 - 例) 主人公を設定する…自分、学術史上の高名な学者、原子、星、昆虫、紙幣、芸術家、患者、子ども、etc.
 - 例) 話の展開方法に工夫する…歴史絵巻、ミステリー、ドキュメンタリー、etc.
- ・ 導入部分では、注目、期待、親近感を喚起する
 - 例) 「ゴリラは凶暴な野獣だと思いませんか？」と聞き手の先入観を指摘する
 - 例) 「実は、恐竜は今でも生きています」と驚かせて、実は鳥類のことだという種明かしを後でする
- ・ 展開部分は20分以下のユニットに分けて配列する
- ・ まとめの部分では、「物語」に終止感を与える
 - 例) 謎解き物語のときは、「こうして謎が解けました」と宣言する
 - 例) 身近な話題から始めたら、また身近なところへ戻ってくる
 - 例) 「こんな風にして、みなさんがお使いになっているコンピュータが開発されたわけです」というように過去の話が現在につながる
 - 例) 将来の予測や、あなたの研究の今後の夢を語る
- ・ 重要なポイントを際立たせる…スライドの形式や背景色を他の場面と変える、etc.
- ・ 簡単なクイズやアンケート、映像や実物の提示を挟む(多すぎると集中を削ぐので注意)
- ・ 話の内容を端的にまとめて締め括る
- ・ より詳しく知りたい人のために参考資料を示す
- ・ 持ち帰ることのできる「お土産」を用意する…実物、模型、資料、etc.

3. 話し方

- ・ いつもより「ちょっとだけ」大きめの声で、ゆっくりめに語りかける
- ・ 強調したいところは、沈黙（間）を利用したり声を潜めたりする
- ・ 一つ一つの文を短く簡潔にする
- ・ 聴衆に語りかけるような言い回しを使う
 - 例) 「では、なぜダーウィンは自然選択で進化が説明できると思ったのでしょうか。ちょっと不思議ですね。答えを言ってしまうましょう。実は…」
- ・ 同音異義語の区別や漢字について適宜補う
- ・ 誤解されそうな用語・概念や、専門語として使われるときと日常語として使われるときで意味が異なる用語は、注意して丁寧に説明する
- ・ 比喻を適切に使う
 - 例) 「地球がリンゴの大きさだとすると、大気圏の厚みはその皮ほどもありません」
 - 例) 「真空中にパチンコ玉のようにぎっしりとヒッグス粒子が詰め込まれていて、そのヒッグス粒子の“海”をハドロンがかき分けかき分け進むので、質量が生じます」

4. 非言語コミュニケーション

- ・ あなたの身体、顔、視線を聴衆に向ける
- ・ とくどき聴衆を見渡す
- ・ 相手の耳元あたりを見る（目を覗き込むと威圧感を与えることがある）
- ・ 聴衆側に歩み出たり、壇上から客席側に降りたりする
- ・ 表情豊かに、動作を伴って語りかける
- ・ ここが聞き所ですよ、ということを表情や身振りで表わす

5. 質疑応答

- ・ 質問に対して、感謝の意を表す
- ・ 質問を要約して述べる（質問が明確でなかったときは解釈して質問者に確認する）
- ・ 回答のはじめにまず簡潔な答えをし、あとから補足説明をする
- ・ 回答が適切だったかを質問者に確認する
- ・ 自分からディスカッションにつなげてみる
 - 例) 「□□について皆さんとお話ししてみたいと思っていました」
- ・ 専門領域外のことを質問されても、可能なかぎり答える
 - 例) 「ご質問の事柄は、○○学という分野が扱っています。たとえば△△さんが書いた本をお読みになるとよいと思います」
 - 例) 「今のご質問には科学知識だけで答えることができません。倫理的（社会的／政治的／文化的）要素が含まれているからです」
- ・ 一人の聴衆が長く場を独占しそうなときは、適度なところで切り上げる
 - 例) 「申し訳ありませんが、他の方も質問がおありのようですので」
- ・ 明らかに文脈を外した質問でも言下に否定はせず、自分の考えを述べる
 - 例) 聴衆「相対性理論は間違っていると思うのですが」
講演者「そういう考え方もあるんですね。でも私は、相対性理論は十分に証拠が積み重ねられ、非常によく検証された理論だと思います」
- ・ 講演後もしばらく付近に残って、聴衆の質問を受ける

注：本ガイドは、名古屋大学高等教育研究センター（2008）『研究者のための科学コミュニケーション Starter's Kit』の内容を活用しています。

作成者：齋藤芳子（名古屋大学高等教育研究センター）

作成日：2010年3月1日

URL：http://www.cshe.nagoya-u.ac.jp/facultyguide/